

狗エイヌ。イヌ犬子也。云々。猷エイヌ亦作猶。口口謂犬子爲

エイヌ。獨同云。按にエイヌといふハエノ節用集下巻。小猷獨エノ

コ云々。崇峻記前紀に犬。ウヌ云々など見えて古言に惠奴とも

以沼とも字奴ともいふを通音ならねばとて初學の輩ハハ

もひ惑ふ。然りこのもと唸聲ハウエヌウナルコエ。約ればウシヤとい

ふより呼ひし名もて字を省てい惠奴といひ惠を省てい字

奴といひ字を通りしてハ以奴ともいふなり武藏相摸の

方言ハ犬子をイナリコといへりそはウナリコの通音也應

仁別記に旁ハ敵を指置てイナリイデ。出ラル云々。また骨

皮左衛門道源が討取れし時の落首に

昨日マデイナリマハリシ道犬カ今日骨皮ト成ナル。グアカエ

キ、此いなり。い唸々也いなり。まのりい唸迴也。犬子

も唸ものなればイナリコとい呼るなるべし

●魚介ノ中毒ニ就テ (承前)

上田英吉

第二 軟體動物及び蟹蝦ノ毒

魚介ノ中毒ニ就テ

魚類ニ次ギテ中毒症ヲ發シ易キ水産物ハ軟體動物及び蟹

蝦ノ類是ナリ其症狀多々ナレハ酷シキニ至テハ横天ノ禍

ヲ免ルハナシトセズ而シテ其原因ハ亦魚類中毒ニ於ケル

ガ如ク一概ナラズ乃チ其ノ孕卵期ニアルアリ又動物自己

ノ疾患、攝取セル食物、交流稀ナル水中ニ生スル者若クハ

船底ノ銅板ニ附着シテ銅氣ニ感セル者等ニ因由スト雖ハ

腐敗ニ傾キ其素質ノ化學的變異ヲ起シテ劇甚ノ毒質ヲ醸

成スルモノ多シトス然レハ是種ノ動物ハ著シク腐敗壞體

スルニ非レバ唯其外觀ヲ察シテ食ス可キヤ否ヲ識別ス

ルコト難ク故ニ其中毒ヲ目シテ徒ニ特感性ノ所爲ニ歸ス

ルモノ多シトス且ツ章魚ノ如キ無紋筋肉ハ消化シ難キヲ

以テ健全ナラザル腸胃ニ在テハ之ヲ糜化スルニ堪エズ食

後直ニ之ヲ瀉下排泄スルモノナレハ往々中毒ト誤認スル

コトアリ是レ醫家診候ノ際省慮スベキ所ナリトス

軟體動物中劇烈ノ毒質ヲ有スル者ハ淡菜 (Mytilus edulis)

トス而シテ本邦産ノ者 (M. Dunkeri) ハ未ダ其中毒ヲ發

スルヲ聞見セザレドモ今ヲ距ル五年前一千八百八十五年

十月獨逸國ウヰルヘルムスハーフンニ産スルモノハ一種劇甚ノ毒介ナルヲ知り之ヲ檢スルニ全月中旬ヨリ十一月上旬マデ皆峻毒ナラザルハナク而シテ翌年ハ中毒症狀ヲ現ハサバリシガ一千八百八十七年十月ニ至リ再び同一ノ毒質ヲ發生セリ當時マギス、ウゐルフ、ザルコースキー、フリーゲル等ノ諸氏ハ其軟部實質若クハ肝臟越幾斯ヲ製シ又一種ノ遊離類鹽基ミチロトキシン (Mitilotoxin, $C_6H_5NO_2$) ヲ析出シテ之ヲ温血動物ノ皮下ニ注射シ、ニ忽チ不安ノ狀ヲ呈シ呼吸困難且ツ頭ヲ垂レ漸ク衰弱シテ四肢ノ抵抗力ヲ失ヒ終ニ全ク麻痺シ呼吸困難増惡シテ斃死セリ其毒質ノ主トシテ存在スルハ肝臟ニシテ即チ肝臟越幾斯ハ他ノ軟部越幾斯ノ五倍乃至拾五倍ノ少量ヲ投スルモ尙ホ且ツ速ニ中毒症ヲ發セリト而シテ其毒質發生ノ原因ハ從來一種特別ノ毒介ニシテ一時偶然ノ原因ニ由リ他ヨリ入リシ者ナラント信ゼシガ如斯同一ノ地方ニ於テ殊ニ同時期ニ同一ノ毒性ヲ現スルヲ以テ觀レハ決シテ偶然ノ事實ニ歸シ難シ局所的ノ原因アリテ然ルモノナル可シ

ト云フ Max Wolf, Virchow's Archiv Bd. II. 110, 187.

人體ニ於ケル淡菜中毒ハ其新鮮ナル者若ク之ヲ割烹シ或ハ醋浸セル者ヲ食スルニ在リテ食後數時間ニシテ發病シ劇症ハ三時以上ヲ經テ鬼藉ニ上ル Frank's Molecasin. 其症狀ハ

一ナラズ乃チ口内灼クカ如ク煩渴引飲頭痛胃痛ヲ起シ惡

心嘔吐持續シ胃瘞利尿ノ感アリ又心下苦悶脈搏幽微ニシ

テ卒倒スルアリ一二ノ患者ハ呼吸促迫ヲ訴フルコトアリ

而シテ概チ發熱ニ伴フテ紅斑ヲ生ジ或ハ丹毒様ノ全身發

炎ヲ起シ稀ニ局所瘍腫ヲ生シ化膿シテ壞疽ニ陷ルコトア

リコノ他虚脱衰弱、四肢ノ知覺鈍麻及ヒ不全麻痺ヲ併發

シ殊ニ下肢ノ麻痺ハ食後廿四時間ニシテ起ルモノニシテ

既ニ其徵ヲ現スルキハ藥治効驗ナキモノトス而シテ其快

癒スルハ六時ヨリ六日ノ間ニ在リテ全身表皮ノ剝脱ト共

ニ紅斑消失スト云フ

牡蠣及ビ Cardium edule モ亦中毒症ヲ誘起スルコトアリ

殊ニ牡蠣ハ其孕卵期ニ毒質ヲ含有スルニ似タリ故ニ西診

ニR字ナキ月ハ之ヲ食フ可カラズト蓋シ五月ヨリ八月ノ

間ヲ謂フナリ而シテ其中毒ノ原因ニ關シテハ未ダ明晰ナ
ラズ曾テ其越幾斯ヲ製シテ蛙ニ試ムルニ昏睡ノ狀ヲ呈セ
シコトアリト雖能ク其主因ト認ムベキモノヲ斷定セザ
リシトウ・アン氏ノ說ニ據レバ牡蠣ノ腐敗經過中チロ
トキシン (Tyrotoxin) ト稱スル一種類鹽基ヲ發生シ往々
中毒スルモノアリ其症狀ハ腸胃ノ刺戟ヲ發シテ環狀筋ヲ
收縮シ爲メニ便秘ヲ致シ故ニ稀ニ吐瀉ナクノ死亡スルモ
ノアリ其他瞳孔開大顔面潮紅腹部大動脈振動舌白苔嘔吐
呼吸困難猩紅疹皮疹等ヲ發シ體温多クハ常温以下トナリ
稀ニ九十九度五分ニ上昇スルヲアリト云フ
明治廿二年三月相模三浦郡長岡村外
六ヶ村ニ一種ノ疫アリ其死亡ハ百人ニ付六十六、一三ノ夥キ數ニ上リシガ當
時某氏ハ其原因ヲ調査シテ牡蠣中含有スルチロトキシンノ中毒ニ歸セリ其
說ノ當否ハ姑ク世評ニ任スルモ聞クガ如クハ舉家數々之ヲ食シタルモ其人
悉ク此病ヲ發セズ又拾數日間之ヲ食セザリシモ却テ此病ニ嬰リシ者アリシ
ト按ニ中毒トハ其身體ニ毒物ヲ受容シテ後チ患者ヲ發シ決シテ傳染感染ス
ルモノニアラズ乃チ河豚ヲ食シテ死スルモノアレハ未タ之ニ接觸シテ病ム
モノアラザルナリ而シテ三浦郡ノ疫ヲ以テチロトキシンノ中毒ナリトスル
モ其牡蠣中含有スル量ハ僅微ニシテ以テ身體ノ變調ヲ起スルニ足ラザラ
ン亞砒酸ノ局量ハ〇、〇二ナレハ是ノ恐レベキ毒物ノ〇、二乃至〇、一八ヨ
リ遂ニ〇、三乃至〇、四ヲ服シテ尚ホ死セザル者アルノ事實ハウエスト、シエ
ルフエル等諸氏ノ證明セシ所ナリ又酒客ノ一日麥酒ヲ飲用シテ後チ頓死セ
ル者アリ而シテ其供用シタル麥酒ヲ分析スルニ斯篇里規泥混ノ痕跡アリシ
チ以テ其死因ヲ直ニコレガ中毒ニ歸スルハ揣摩穿鑿ノ見タルチ免レズ蓋シ
麥酒中ニハ忽布ニ代用スルニ廉價ナル苦味質即チ番木鱉子、コルクス實古

魚介ノ中毒ニ就テ

爾矢風謨實、必風林酸等ヲ以テシ皆甚シキ毒物ニ屬スト雖其麥酒中ニ含有
スル量ハ僅微ニシテ酒客致命ノ原因ハ果シテ番木鱉子ニ在リト斷定シ難ク
他ニ急速ニ生命ヲ戕滅スルニ足ルノ病因アリシモ亦誤フ可カラズ況ヤチロ
トキシンノ中毒症狀ハ當時流行セシ疫ノ症候ト符合セザルニ於テチヤ
頭足類ノ諸種モ往々中毒症ヲ發スルコトアリ殊ニあしな
がだコヲ以テ多シト俗間ニ其毒ハ肢ノ末端旋卷セル部
ニ主坐スルトナシ截斷シテ之ヲ放棄スルヲ常トス而シテ
腹行類ニシテ中毒シ易キハ田螺拳螺 タニシ、サレイ Litorina litorea,
Murex brandaris 等ニシテ就中 Murex brandaris ハ胃炎
ヲ發シ呼吸困難、抽搐譫亂シテ遂ニ斃死スルモノナリ
蟹蝦ハ之ヲ食スルノ後チ皮疹ヲ發スルコトアリ而シテ概
チ之ヲ特感性ノ有無ニ歸スルト雖亦純乎タル中毒症狀
ヲ呈スルモノナシトセズ即チ其症狀ハ虎列刺性ニシテ吐
逆、下痢兼ヌルニ下腹劇痛ヲ以テスト雖其預後ハ危篤ニ
陷ルコト稀ナリトス但シ其原因ニ關シテハ未ダ審究セズ
ト雖其腐敗セルニ非ラザレハ或ハ其生前攝取セル食物如
何ニ由ルナランカ明治十八年春一魚商ノ宮城縣伊具郡
金山本郷及ビ大内村近傍ヲ徘徊シテ草蝦ヲ鬻グモノアリ
之ヲ購フテ食セシ者必ズ其毒ニ中ラサルハ莫ク無慮百五

明治三十三年十月十五日

ダーウ・ン氏ノ自傳

第貳卷

四五〇

六拾名ノ多キニ至レリ其症狀ハ急性胃加答兒様ニシテ最初多量ニ水瀉シ次テ嘔吐シ四肢厥冷心下苦悶劇シキ腹痛アリテ間々血使ヲ排泄スルモノアリ然レモ幸ニシテ一人ノ鬼籍ニ上ルモノナカリシト抑モ同地方ニテコノ草蝦ヲ捕獲スルニハ既ニ結實セル獨活莖若クハ竹葉ニ人糞ヲ撒附シ之ヲ乾燥シテ水中ニ浸シ置クモハ草蝦非常ニ群集スト云フ 大日本私立衛生會報告第二十號(明治十八年)亦以テ其中毒原因ノ一斑ヲ窺フニ足ル可シ

雜 錄

●ダーウ・ン氏ノ自傳(承前) 大學ニ於テハ種々ノ學科ニ就テ講義アリテ出席ハ隨意ナリキ然レモ余ハエデンボロノ講義ニ甚ク嫌惡シタレバセザウ井ク氏ノ能辯ナル面白キ講義ニスラ出席セザリキ若シ此時出席シタルニハ余ハ實際地質學者ニナリタルヨリ一層早ク此學ヲ修メシナラム是ニ反シテ余ハヘンスロー氏ノ植物學講義ニ出席シ其極メテ明晰ナルト其例ノ感服スベキヲ大ニ

好ミタリ然レモ余ハ植物學ヲ修メタルニハ非ズヘンスロー氏ハ恒ニ其生徒(其中ニハ學生中長者連モアリタリ)ヲ率ヒ徒行或ハ車ニテ遠方ノ野外散歩ヲナシ又ハ小舟ニテ河流ヲ下リ途中出逢ヒタル希有ノ動植物ニ就テ講義シタリ此等ノ野外演習ハ實ニ愉快ナリキ

後ニ至リテ明白ナルガ如ク余ノケムブリニ暮シハ幾分カハ賞スベキ所アリタレモ時間ヲ無益ニ消費シタルハ實ニ悲ムベキヲナリ而シテ余ノ時間ヲ費シタルハ徒ニ是ヲ消費シタルヨリ尙ホ甚シキヲアリ余ノ銃獵ヲ甚ク嗜ミ又獵ヲナスコト能ハザルモハ田舎ヲ馬上ニテ行クヲ嗜ミシヨリ余ハ一ノ遊ビ連中ニ陷リ此連ノ中ニハ不取締ノ下等ナル青年モアリタリ吾等ハ度々夕刻共ニ食事ヲ爲スヲ習慣トナシタリ此中間ニハ固ヨリ一層上等ノ人モアリタレモ吾等ハ時トシテハ過度ニ飲酒シ其後囂シク歌ヒ又かるたヲ爲シタリ余ノ此ノ如クニシテ數多ノ日夜ヲ消費シタルハ深ク愧ベキヲト自ラ知ル然レモ余ノ友ノ中或者ハ實ニ愉快ニシテ且吾等總テ勇ミ居タレバ余ハ此時ヲ回顧シ